

Ganapati Sāstri 氏に對し、星宿稍遠く隔たりたる今日、杳かなる日束の天地より滿腔の感謝を捧げて止まない。
(藤井周)

最近佛敎研究論文一覽 (大正十二年)

(A) 原典

善導大師本真爾疏弘傳考

藤原 猶雪 虫學雜誌 闕へ11

立正安國論抄出略註

小林 一郎 法華 10へ11~11

式文第三段下の一問題

松陰 了諦 龍大論叢 11月1

Buddhavapya-Katika, Sangitivamsa-Kata, Sasana-rāma-Katha, Rajavapya-Katha-Chatam. (Burmese) (J. B. R. Society, Vol. XI, Part III.)
Th. Alhidhamma-Pitaka and commentaries, By C. A. F. Rhys Davids. (R. A. S., April, 1923.)

(B) 教理及教理

無我論

手島 文倉 哲學研究 ヘノ10~11

攝取不捨

金子 大榮 成同 ケヘ11

五位傳承史

岡田 宣法 同

大品般若經の方便思想

佐藤 泰舜 同

大乘菩薩道と無我思想

佐々木月樵 宗教の思想 1~11

他力經濟の宗教

齋藤 唯信 教化 同

内省の軌範としての三々法門大須賀秀道

可西 大秀 同

念佛道の顯現まで

同

佛は何處に實在するか	馬田 行啓	法華	10~11
信心威佛論	北尾 圓大	同	10~11
小乘戒より大乘戒へ	松本文三郎	龍大論叢	11月1
眞門行論	小山 法城	同	1月1
智者思想の教史一般	梅田 龍月	獻山宗教	國へ11
支那佛教概說問題に就いて常盤博士に對する	久保田量遠	無礙光	元へ10
上座末派の教義	高井 觀海	密宗學報	1月1~11月1
印度神變派の組織	長谷部隆誦	同	1月1
印度の淨土教	舟橋 水哉	同	11月1
金剛頂宗と世親學派との關係	中井 自朗	同	1月1
道蓬和尚の學說に就いて	熊田 龍雄	同	1月1
空の教義に關する一考察	赤沼 智善	合掌	Eへ11
獻山の圓戒と永平の禪戒	清水 梁山	第一義	1月ノベム合
海印三昧の基礎的意義	青木 正音	同	1月ノベム合
日本佛教の本質と觀體の哲學鷺尾順敬	稻村 坦元	宗敎の思想	1~11
Hinayananism and Mahayanism. by Shwe Zan Aung. (J. B. R. S. Vol. XII. Part I.)	稻村 坦元	第一義	1月ノベム合

(C) 教會

山陰に於ける曹洞宗史料

稻村 坦元 第一義 1月ノベム合

法華會廣學堅義起源沿革の概要

稻岡 默嘯 獻山宗教 Eへ10

Ksatrya Clans in Buddhist India, by Bimala Chāraṇ Law,

(J. B. R. S. Vol. XII. Part I.)

(D) 傳記

聲明梵唄の聖應大師

戀の西行

真如親王の記念と新嘉坡

法然上人諸傳成立考

入宋僧寂照に就いての研究

述如上人門弟手原の孝子坊に就いて

橋川 正 龍大論叢

1941

佛教の本型及精神

佛教婦人

赤沼 智善 成同

陰陽道と神佛二教との關係

山本 信哉

史學雜誌

尾張田縣神社と久保寺

同

同

ヤノル

ヤノル

赤松 月船 同

新村 出 歴史と地理

中澤 見明 同

史學雜誌 1941

西岡虎之助 同

同

尾張田縣神社と久保寺

水島 兎人 郷土趣味

同

四ノ六

同

同

同

ヤノル

ヤノル

ヤノル

ヤノル

佛教研究大正十一年度末決算

收入之部

一金貳千五百五拾四圓四拾四錢也

内 譯

一金參拾參圓參拾九錢也

一金壹千壹百拾六圓六拾錢也

一金六百圓也

一金四圓四拾五錢也

一金八百圓也

一金參千五百參拾四圓七拾四錢也

内 譯

一金壹千六拾五圓參拾錢也

一金拾六圓也

一金貳拾六圓五拾錢也

一金拾六圓也

一金參拾貳圓五拾錢也

一金六拾九圓也

一金壹百六拾五圓也

一金參百七拾圓也

一金七百九拾圓四拾四錢也

一金拾九圓七拾錢也

前年度繰越金
會費收入額
補助金收入額
振替利子分子
會費未納分母

發行印刷費
編輯費
諸用紙代
發送費

委員慰勞費及手當費
前年度借金返済
發行費未支拂額

罪と救の本義
靈魂の考察
信仰の天地と科學の天地
眞宗の本尊に関する研究
佛字をホトケと訓む國語上の根據

多田 鼎 教化
柏原 祐義 同
小林 一郎 法華 10~10~11
禱祐 龍大論叢 11~11

有明 中央佛教 11~11